

コロンビア難民の自立を助けるために

「これで念願の自分の店を開くことができる。本当にありがとう」

うつすらと涙をにじませ、感謝の気持ちを伝える一人のコロンビア難民に、JICA専門家菊池四郎さんが力強く声を掛けた。「Fuerza! (頑張れ!)」。

ここは、南米・エクアドルの街、サント・ドミンゴ市にある職業訓練センター。それまで3カ月間にわたって同センターで実施されていた「製菓・製パンコース」の訓練生が全課程を終え、修了式に出席していた。

一人当たりの国民総所得が3000ドルを超える一方で、国民の4割が1日2ドル以下の生活を送り、社会格差の拡大が深刻なエクアドル。貧困層の多くは、小規模農家や女性、先住民、障害者をはじめとする「社会的弱者」と呼ばれる人々だ。その中には、泥沼化した内戦が続く隣国コロンビアから国境を越えてきた、推定14万人のコロンビア難民も含まれる。

こうした貧困層の生活を改善するため、政府は2007年から、全国の職業訓練センターで社会的弱者を対象とした「基礎技能訓練コース」を設置。だが一方で、コースの運営に必要なノウハウが不足しており、指導員の能力強化も課題となっていた。支援要請を

JICA専門家
KIKUCHI Shiro

菊池四郎さん

菊池さん(右から4人目)の前に、「製菓・製パンコース」で訓練を受けた参加者による数々の成果品が並ぶ



受けたJICAは、08年より「社会的弱者のための職業訓練強化プロジェクト」を開始。現在、菊池さんが専門家として、カリキュラムの策定や教材開発、コースの運営管理方法などを指導員たちに伝えているほか、定期的に各地のセンターを訪問し、訓練の現場でさまざまなアドバイスを送っている。

プロジェクトの開始に当たり、全国18カ所のセンターのうち、8つが対象に選ばれた。大半が、コロンビア難民が多く住む地域に立つセンターだ。「彼らのほとんどはコロンビアの農

村部出身で、その多くが内戦の影響で小学校すら出ていない。そのため、ここエクアドルでも働き口を探すのは容易ではありません」と菊池さん。「役に立つ知識や技術を得て、就職や起業によって彼らの収入向上につながってくれば、そう考えています」。

南米社会に最高の恩返しを

現在、プロジェクトでは、調理、縫製、電気、建築、機械金属、自動車整備の6分野で訓練の実施を支援しており、すでに167コースが終了、3000人近い修了者が生まれている。そしてその中には、200人以上のコロンビア難民もいて、学んだ技術を生かしながら、就職したり起業したりするケースも徐々に増えているという。

「この訓練コースが始まるまで、難民である彼らは、収入の手段と成り得る新しい技術を身に付ける機会がありませんでした。だからこそ、今、彼らは一生懸命学び、無事コースを修了したときには心からの感謝を伝えてくれます」

それは、菊池さんにとっても大きな喜びだ。きっとその姿が、幼少時代に日系移民としてパラグアイに渡り、家族とともに自らの運命を切り開いてきた自分の生い立ちとも重なるからだろう。「今こそ、日系移民が持ち込んださまざまな農作物が作られるようになりましたが、移住したばかりのころは、食べるものも何もありませんでしたから」と、今も当時の記憶が鮮明によみがえる。

菊池さんが、南米でJICA専門家として支援に携わるようになって、もう18年になる。「国が変われば言葉も習慣も異なりますが、私の場合は自分が育ったこの南米の国々で、文化と言語を共有しながら専門家として働いている。そのため、相手にどんな事情があるのか、どんな支援を必要としているのかを理解しやすく、より相手の立場に立つて物事を考えることができる気がします。それは、何かを教えたり伝えたりするというより、むしろ『共同作業』に近い感覚なんです」

この日、修了式に臨んだ参加者の顔は一樣に明るく、自信に満ちていた。「学んだ知識や技術を手に、未来を切り開いてほしい」
彼らを力強く送り出すこと。それは菊池さんにとって、まさにこれまで自分を育て、受け入れてくれた南米社会に対する最高の恩返しでもある。

きくち・しろう

1954年岩手県生まれ。6歳のときに家族とともにパラグアイに移住。パラグアイ電気通信公社計画局、在パラグアイ日本大使館に勤務。92年よりJICAの「移住者子弟専門家制度」で採用された最初のJICA専門家として、プロジェクトの業務調整の傍ら、電気通信や職業訓練分野での訓練コースの開発、運営管理などに携わる。2000～02年「チリ・環境センタープロジェクト」、02～07年「エクアドル・職業訓練改善プロジェクト」、08年1月より「社会的弱者のための職業訓練強化プロジェクト」の立ち上げに携わり、08年11月より現職。



「調理コース」の訓練を修了したコロンビア難民が、訓練の経験を生かして町にレストランをオープン



アマゾン地域の先住民を対象とした「自動車整備コース」の様子。各職業訓練センターの様子を視察するため、菊池さん(右端)は常に国内を飛び回っている

「未来を切り開く力を後押ししたい」

学んだ知識や技術とともに、自立への第一歩を踏み出してほしい。コロンビア難民をはじめとする、エクアドルの貧困層への職業訓練に取り組むJICA専門家・菊池四郎さん。日系移民として長年暮らしてきた南米の地で、新たな道を切り開こうとしている人々に勇気と自信を与えている。



第23回 ゲンバの風